

今月号では、山口市名田島にある747年に創建された高野山真言宗、岩屋山地蔵院の住職である林義正さんにお話を伺いました。



岩屋山地蔵院

所在地	〒754-0892 山口市名田島3483 TEL/FAX : 083-987-3044
代表	林 義正
H P	http://iwayasan-jizouin.com/
I G	https://www.instagram.com/yamaguchi_iwayasan/
F B	https://www.facebook.com/YanWuShanDeZangYuan/



●会社沿革

天平19年	行基菩薩により防府の地で創建
明治初年	現在の名田島の地に移設
平成20年	林義正さんが岩屋山地蔵院第37代住職に就任
平成25年頃	境内でのイベント実施を始める

●岩屋山地蔵院とは

岩屋山地蔵院のはじまりは天平19年(西暦747年)にさかのぼります。元々は現防府市に「国分寺」という大きなお寺があり、その周りに祈願所や供養所など役割を分けて建てられていた塔頭のひとつで、国分寺が建てられた747年と同じくらしいの時期につくられたと言われていいます。

現在、岩屋山地蔵院がある地には「長安寺」というお寺があったのですが、神仏分離令の布告による影響を受けて衰退していきました。そこで明治初年に防府の国分寺から移されたのが、地蔵院でした。当時はお寺がなくなっても別の場所からお寺を送り、再建するということがよく行われていたのです。名田島の「岩屋」という地区にあることと、寺の裏手にある山が「岩屋山」ということから、寺院の名称の前に冠する称号である山号を「岩屋山」とし、「岩屋山地蔵院」となりました。

岩屋山地蔵院は秋穂八十八ヶ所霊場のひとつになっています。本場の四国八十八ヶ所霊場からお札などを持って帰って開かれた霊場は「写し四国」と呼ばれます。このような霊場は日本全国にたくさんあり、山口県内でも嘉川や笠戸島、大島などにもあるのですが、秋穂が日本最古の写し四国と言われているのです。

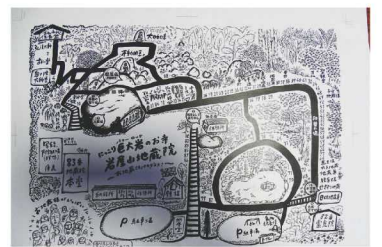


岩屋山地蔵院の本堂



88番まである境内のお大師様

実は、この八十八ヶ所霊場の写しが岩屋山地蔵院の境内にもあります。境内にある仏様の数は100体を超えますが、番号を振ったお大師様は88体あり、八十八ヶ所霊場巡りを体験できるようになっています。八十八ヶ所の位置も示した境内の地図を作成中で、4月に開催するイベントで配布できるよう準備を進めているところです。



手書きで緻密に描かれた境内の地図(制作中)



参道に咲く梅の花

岩屋山地蔵院は、四季折々の花木が楽しめることも特徴のひとつです。先代の頃から気軽に訪問してほしいという想いがあったのだと思います。曾祖父(初代)の時代から庭を造り始めて、脈々と受け継ぎ、あえて庭師は入れずに自分たちで管理しています。境内がそれほど広くないので数より種類を増やそうと20~30種類の花木を植えており、これからの季節は数種類の桜などを楽しんでいただけたらと思います。花を見に行くという目的だけで来られるのも歓迎です。「花を見に来たらお寺があった」から徐々に、「お寺の境内の中に花があるんだ」と思っていたけりなればよいなと思います。



境内に咲く桜

● ～ 殻を破った取り組み、親しみやすいお寺を目指して ～

近年は、お寺に足を運ぶ機会がなかなかなく、お寺離れが進んでいます。核家族化に伴って、今まではおじいちゃんやおばあちゃんから合掌の大切さを教わっていたものが、伝えきれない時代にもなってきました。

一方で御朱印ブームがあるように、若い方が来られることも増えるようになり、お寺をもう少し身近に感じてもらえるようにできるチャンスがあるとも感じています。そこで、足を運びやすくするきっかけづくりとして、イベントの実施やSNSでの発信といった取り組みを始めました。

何かお寺に人が集まるようなことをしたい思いはずっとあり、約10年前に境内に飲食店や加工品・衣料品販売を招いて「うずまきナイトマーケット」を開きました。これがイベント開催の走りとなりました。その後も「御縁祭」では本堂でのライブなども実施。昨年夏には、夏祭りをイメージした「御縁祭」を久しぶりに開催しました。



御縁祭でのライブの様子

今年4月8日には「花まつり」を企画しています。この日は灌仏会といって、お釈迦様の誕生を祝う日です。かねてから疑問に思っていたのは、お釈迦様の誕生日を祝う日には、クリスマスのように多くの方が楽しく過ごす文化がないことです。お釈迦様の誕生日もみんなが笑顔で楽しく過ごせるようにしてもいいじゃないかということで、花まつりを企画しました。

イベントのポスターにはお釈迦様が「南無っ！」と掛け声を発している姿を現しました。初め、キャッチフレーズは「メリー仏陀マス！」にしようとしていたのですが、それは却下されました(笑)。もちろん厳かにすることも大切だと思っています。快く思われないお寺さんもいらっしゃるかもしれませんが、やはり皆さんに親しみを感じてもらい、気軽に足を運んでいただくようにすることを考えると、このようなことも必要なと思っています。

また毎月24日には「お地藏様縁日」を開いています。毎月のことなので、花まつりなどよりは小規模ですが、長門から乾物屋さんに来ていただいたり、境内にあるお寺茶房「無憂庵」を開いたりします。無憂庵では矢原の花あそびさんとコラボしたオリジ



お地藏様を模した和菓子とコーヒー



幻のうどん

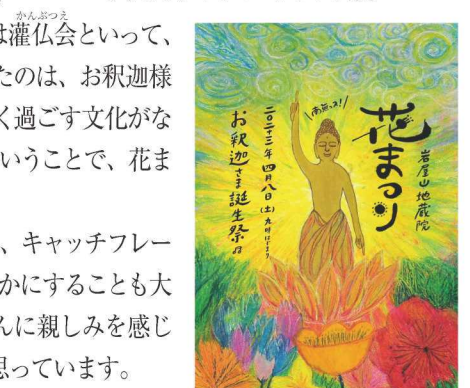
ナルコーヒーや、うどんなどを提供しています。コーヒーにはLAWAKUさんオリジナルの和菓子と一緒にしてお出ししていて、うどんは基本的には月1回しか食べられないので、「幻のうどん」と呼んでいます(笑)。

そのほか、着付けから写真撮影までを含めた七五三や成人式の前撮り撮影プランも実施しています。1日2組限定なのですが、約10年続けています。フォトスタジオではできないような、自然体の姿を撮影でき、好評を得ています。

インスタグラムやフェイスブックなどSNSで、積極的に情報発信をするようにもしています。イベント告知はもちろん、七五三や成人式の前撮りの様子、境内のお手入れの様子、「今日の住職」と見出しをつけた近況報告なども投稿しています。硬い内容だけでは遠のいてしまう方もいらっしゃると思いますので、身近に感じてもらえるように殻を破っていきこうと、さまざまな内容を投稿しています。



うずまきナイトマーケットの様子



花まつりのポスター

●今後の展開 ～ 生きる上で大切な気付きを与える心の拠り所になる ～

4月8日に1回目を迎えるイベント形式の花まつりは、今後も定期的に開催していこうと思います。地域を巻き込んで、地域の皆さんと一緒に楽しめるようなイベントをこちらからも発信しつつ、地域の方が何かやるのであれば一緒に参加して、お互いで盛り上げていけるような環境をつくりたいです。

お寺＝葬儀・法事という印象があるからか、敷居が高く感じられ、踏み込みにくい雰囲気があると聞くこともあります。お寺は本来「どう生きなければいけないのか」を考えるきっかけを与える場所です。お寺の世界に入って学ば学ぶほど、亡くなるまでの間にどう生きなければならないのかという教えを説くことを大切にしていることが分かってきました。

お寺の使命は「繋いでいくこと」。葬儀を例に見ると、親戚にも声を掛けられないなど簡単に済ませようとされる方が増えています。亡くなった方を送ることはもちろんですが、葬儀で最も大切なのは今までの感謝を伝えて、その後の縁を繋ぐ場であるということです。今はその大事な部分が欠けてしまっていることが多くあります。

声を掛けて来るか来ないかというのは別の問題で、亡くなったことを伝えることがすごく大切なのです。伝えることによって繋がり、離れなくなります。繋ぐのは自分のためだけではなく、次の世代のためでもあります。このようなことを伝えていくのもお寺の役目と考えます。

お寺が昔、子供たちが学校帰りに遊びに来る身近な場所だったように、皆さんの「心の拠り所」になれる、自由に来やすいお寺を目指して、気軽に寄ることができる環境を改めてつくっていききたいですね。